

# 群馬県立桐生高等学校（通信制課程）学校評価一覧表②（令和4年度版）

(様式2)

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ			学校関係者評価			次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合								
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 充実した学びの場を生徒に提供するという本校通信制の使命を共通の認識とし、特色ある教育活動を行っていますか。	①桐高通信制に入学して良かった（学校生活に満足している）と思っている生徒が80%以上である。 ②通信制職員全員がガイドライン（欄外※参照）を踏まえ、本校通信制の教育課題について認識し、業務改善に努める。	A	A	A	感染症予防に注意しながら、学習ガイダンスの充実や、生徒の実態を考慮しながら行事企画運営に努めた。最終的には生徒の個別性を重視した指導を行った。			I 特色ある学校づくりについて ・多様な生徒を受け入れている通信制への関心とニーズは高まっている。通信制の特徴を活かして学びの継続と高校卒業資格を得ることが、通信制の目的的だが、さらに一人一人の生徒が進路実現できるように工夫してほしい。	生徒ひとりひとりが卒業に向けて、主体的に学習を進められる学校づくりを推進する。行事等を通じ「私たちの学校」という意識の向上を目指す。 ・係内や係間での協議・情報交換等を密に行う。必要に応じて根拠となる法令等を確認し、重点目標の達成を目指す。			
	2 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導を行っていますか。	③自らの学習進行を定期的に確認し、計画的に学習を進めていると思ってる生徒が80%以上である。  ④特別活動（LHR・学校行事・生徒会行事など）に満足していると思っている生徒が80%以上である。	C	C	C	生徒に学習進行状況調査票を配付することで生徒自らが学習の進行状況を確認することができるようになった。そのため生徒が担当教科科目の先生に声をかけ、相談をする姿が、スクーリング日ごとに見られるようになってきた。教員より生徒への学習支援や励ましを伝えることで、主体的に学習に取り組めるよう支援していきたい。			II 生徒の意欲的な学習活動について ・今年度は感染防止のためにICTを活用した学びの工夫が見られた。さらに生徒のために積極的に工夫し、意欲的に学習に取り組めるようにしてほしい。 ・スクーリングに出られない生徒や家庭でのレポート学習ができない生徒がいる。生徒の学習進捗状況を生徒と先生が共有し、個別指導を通して自学自習ができるよう生徒を支援してほしい。	個々の生徒の学習進捗状況を生徒と教員が共有し、生徒自らが学習進行状況を把握し、主体的かつ計画的に学習を進められるよう支援をする。特に家庭学習を支援するため平日登校を奨励するなどを行い、個別学習指導を深化する。			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導を行っていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤自らの学習活動（レポート学習及びスクーリング授業）に満足している生徒は80%以上である。	C	C	C	生徒会と連携し学校行事の企画段階から生徒の実態に応じた内容となるように、さらに、生徒が参加しやすい行事運営に努めたい。 ・スクーリングに出られない生徒や家庭でのレポート学習ができない生徒がいる。生徒の学習進捗状況を生徒と先生が共有し、個別指導を通して自学自習ができるよう生徒を支援してほしい。			III 生徒の充実した学校生活について ・大人も含め、生徒にとって、SNSはなくしてはならないものとなった。生徒への指導に活かせるように工夫してほしい。 ・交通指導では、事故に万一あったときの保険加入や、事故防止の観点から交通ルール等について指導を継続してほしい。	本校への帰属意識を高めるため、行事内容を見直し、主体的に参加する生徒が多くなるよう努める。			
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥集団の中でお互いを尊重し、マナーを守り、清掃等の活動に協力している生徒が80%以上がある。  ⑦学校からの指導（講演会・桐高通信・スマートルール等）を通して、SNS等の危険性について理解が深まったと思う生徒は80%以上である。	A	A	A	集団生活におけるマナー等の周知に努めた。さらに問題行動発生時の段階的な指導を充実させるべく、全教職員で共有理解のもとでの指導する体制づくりを行った。			IV 生徒の主体的な進路選択について ・生徒一人一人が入学時から卒業するまでの自らのロードマップを持ち学習を継続する途上で、自らの進路実現について考えを深め、継続した努力ができるように指導をしてほしい。	職員の体制づくりは継続して行うとともに、生徒会を中心に生徒主体の活動を通してマナーの意識向上を図る。			
	5 学校はいじめ防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧質問や心配なことがあるときに先生に相談しやすく、先生は誠実に対応してくれると思う生徒が80%以上である。	A	A	A	些細な生徒の変化について情報を職員間で共有し、共通理解をし、指導をすすめた。			V 開かれた学校づくりについて ・地域からの桐生高校への期待は高いと思う。生徒たちのがんばりを情報発信することで学校への理解者を増やす。	SNS等に頼らない人間関係づくりを目指し、生徒会を中心に行われる呼び掛けを継続し一層の推進を図る。			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導を行っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨学校でおこなういじめ予防の取り組みやいじめに関する調査が適切に行われていると思う生徒が80%以上である。  ⑩あなたの学校での生活は安心で快適であり、体調不良になった時には適切に対応してくれると思う生徒が80%以上である。	A	A	A	常時、職員間で生徒に関する情報交換を積極的に行い、職員間での生徒共通理解に努め、丁寧な指導を推進した。			VI 教育のデジタル化について ・進路説明会・進路講演会等では、実際の進路活動に活かすことのできる内容・自己実現へと繋がる内容を意識し、企画運営をする。	学校生活アンケート等の活用。職員間で情報交換や共通理解の上での支援をおこなう。生徒からの相談しやすい環境作りをおこなう。			
	7 個別に応じた計画的な指導を行っていますか。	⑪進路についての情報が学校から適切に提供されていると思う生徒が80%以上である。  ⑫進路説明会や進路講演会等は進路を考えるうえで役立っていると思う生徒が80%以上である。	A	A	A	月報「桐高通信」等での進学や就職に関する情報発信を行った。			VII 教育のデジタル化について ・ICTを活用した本校の魅力をアピールする方法を模索してほしい。	いじめの認知基準を再確認し、職員の共通理解を深める。いじめの未然防止早期発見及び早期対応に組織的に取り組む。			
	8 生徒は自らの進路（キャリア）について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬進路実現に向けて積極的に取り組んでいると感じている生徒が80%以上である。	C	C	C	参加する生徒の進路への意識が高く、進路行事への関心が高い。参加しない生徒への進路情報の提供に努めたい。			VIII 開かれた学校づくりについて ・生徒一人一人が入学時から卒業するまでの自らのロードマップを持ち学習を継続する途上で、自らの進路実現について考えを深め、継続した努力ができるように指導をしてほしい。	生徒が安心して学習できる環境を作る。健康アンケート等を活用し、職員間で研修等を行い、共通理解の上で支援をおこなう。充実さる。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導を行っていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭月報「桐高通信」には、学習や学校生活に必要な情報は提供されていると思う生徒が80%以上である。  ⑮桐高通信制のウェブサイト（ホームページ）で情報は適切に提供されていると思う生徒が80%以上である。	A	A	A	登校する卒業希望生徒への声をかけをし、生徒の声に耳を傾け、実態把握に努めた。個別の指導を要する生徒は多いので、生徒から得た情報を共有し通信制教職員が一致して指導を行っていきたい。			IX 開かれた学校づくりについて ・地域からの桐生高校への期待は高いと思う。生徒たちのがんばりを情報発信することで学校への理解者を増やす。	進路情報の充実・精選を図り、実情に合った内容提供を図る。月報「桐高通信」を通して情報提供や、進路関係の行事を再度見直す。			
	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ICT機器を活用した学習活動（スクーリング授業等）によって、学習内容が分かりやすくなったと思う生徒が80%以上である。	A	A	A	月報「桐高通信」を発送後に、学校webサイトでの公開を行った。計画通り行事報告等を行った。			X 教育のデジタル化について ・ICTを活用した本校の魅力をアピールする方法を模索してほしい。	進路説明会・進路講演会等では、実際の進路活動に活かすことのできる内容・自己実現へと繋がる内容を意識し、企画運営をする。			
VI 教育のデジタル化について	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ICT機器を活用した情報伝達（webページ・一斉メール）によって、学校からの連絡等が理解しやすくなつたと思う生徒が80%以上である。	A	A	A	ICT機器を活用した授業実践をするように、さらに促し、効果的な活用に向けた研修に努めたい。			XI 教育のデジタル化について ・ICTを活用したより効率的な生徒への連絡手段について再度検討する。	生徒の進路に対する意識や希望の実態把握に努める。具体的な行動に結びつかない生徒や登校機会の少ない生徒への進路指導が課題である。教員全体で連携し、より一層生徒一人一人に応じた指導を行う。			

※ガイドライン：「高等学校通信制教育の質の確保・向上のためのガイドライン」（令和3年3月一部改定）参照

